



AACのシンプルテクノロジー機器メーカーである、エーブルネット社のアシスティブテクノロジー(支援技術)の考え方や具体的な活用の方法をご紹介します。

エーブルネット社には次の3つの確固たる理念があります。

1. **すべての人が学ぶことができる。**
2. **すべての人がどんな活動にも参加することができる。**
3. **すべての人がコミュニケーションできる。**

いつの日か、重度の障害を持っていても、すべての人が家族・学校・社会の一員として、学び、参加し、コミュニケーションする機会を持ち、より良いQOLが実現できる事、それがエーブルネット社のビジョンです。

始めてみよう！

それぞれ出来ることは異なっていますが、すべての子ども達に、参加し、コミュニケーションする機会を提供しましょう。エーブルネット社のシンプルなアシスティブテクノロジー(支援技術)製品によって、子ども達は力と豊かで価値のある機会を持つことが可能になります。

下のチェックリストは、エーブルネット社が提供する、“始める”ために必要なシンプルなアシスティブテクノロジーのツール(支援技術に用いる個々の道具)を網羅しています。ご確認頂きたいのは、障害を持つ一人一人の生徒に必要なツールは一人一人異なることです。これらのツールをチェックしていく事により、多くの生徒それぞれの1日を通しての活動を明確にしていくことができます。

シンプル アシスティブテクノロジー チェックリスト コミュニケーション

コミュニケーションエイド(ひとりにつき1個)
シンボル

電気機器やおもちゃの操作のために

パワーリンク2
デュアル スイッチ ラッチ&タイマー

BDアダプター

BDアダプター小 2個
BDアダプター大 2個

スイッチ関連

ジェリービーンスイッチ 2個
スナップスイッチキャップ 小 2個
ビッグスイッチ 1個
スナップスイッチキャップ 大 1個

マウンティング(スイッチの取付のために)

ウルトラスティック

推薦書籍(以下英文書籍)

Making Connections (翻訳本あり:「メイキングコネクション」)
Book of Possibilities (Elementary/ Secondary)
Play & Learn



シンプルテクノロジーを使用する時に、考えるべき大切なこと:

1. 必要条件はありません

子ども達がシンプルテクノロジーを使うための必要条件は、全くありません。出来ることに関わらず、活動に加わり、コミュニケーションや参加する機会を持つことができます。子どもがVOCAに録音されているメッセージや活動の意味を理解している必要もありません。コミュニケーションしながら、子どもはコミュニケーションを学んでいくのです。

2. 部分参加の大切さ

障害を持つ子ども達はそれぞれの能力に関わらず、すべての活動に大切な役割を持って参加することが可能です。アシスティブテクノロジーの力を借りれば、重度の障害を持つ子ども達も、髪の毛を乾かすためにドライヤーをオンにするスイッチを作動させたり、また学級新聞をホッチキスで留めるのに電動ホッチキスを動かすこともできます。目的のある役割を持って活動に参加することによって、誇らしい気持ちを感じることができるのです。

具体的な活用方法)紹介 その1

3. スイッチの場所の選び方

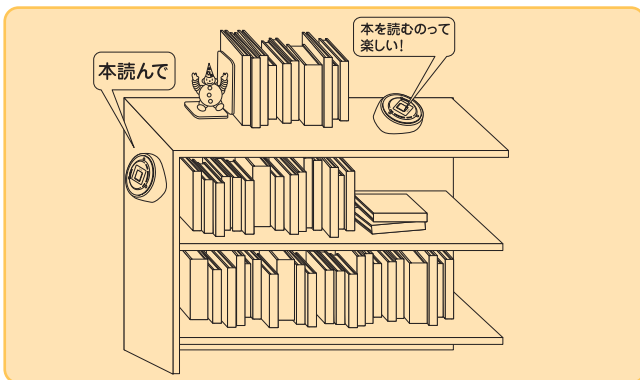
使用するスイッチの種類や設置する場所は、ユーザーのスイッチ活用の可能性に大きな影響を与えます。大変重要ですので、スイッチの種類や設置する場所は、できる限りチーム(先生、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、両親)で決定するようにして下さい。

4. シンボル

それぞれのメッセージに合わせたシンボルを使うことは非常に効果的です。シンボルがあることによって、子どもは言葉や、参加している活動の意味を理解しやすくなります。アシティブテクノロジーを使用する初期の段階でシンボルを常に使用していると、シンボルには意味があることを常に学べ、理解にとても有効です。

5. いつもクラスの中央に

子ども達が必要な時にいつでも、簡単に、すぐに使えるように、教室のレイアウトをアシティブテクノロジー中心にして考えます。例えば、こんな方法を試してみてください。ワンステップコミュニケーターを本棚の横に取付けます。生徒はこれで読んで欲しい本をリクエストできます。また、ステップバイステップに短いお話を録音したり、一文ずつ録音することも可能です。そうすると、子ども達は本読みの活動にも参加できます。



6. 背景知識を作ること

個々の経験を通して、背景となる知識を作ること、すべての子ども達にとって、特に重度障害を持つ子ども達にとって大切です。子どもが持つ背景知識が多ければ多いほど、受ける情報の理解が早くなります。背景知識を作るには、3つの方法があります。

直接、経験をjする

動物についての本を読む前には、生徒を動物園に連れて行ったり、クラスにペットを連れてきたり、牧場に行ってみたりしましょう。

間接的に経験を創り出す

学級新聞を作る前には、地方新聞の記者をクラスに招いて、スピーチをしてもらったり、新聞記者がテーマになったTVドラマなどを見てみましょう。

活動の前に言葉やシンボルで準備をする

調理のクラスに初めて参加するのであれば、調味料は何が必要なのか、完成はどんな料理になるのか、話をしましょう。自然な発声に難しい子ども達のために、その時にはコミュニケーションエイドにシンボルを準備しておきましょう。

このように背景知識を創り出すことは学習を熱意あるものにし、理解が深まり、参加の機会も増やすことになります。



「メイキングコネクション」紹介



「すべての子ども達が学び、参加し、コミュニケーションできる」その方法やヒントがぎっしりと詰まったガイドブックです。著者であるベギー・ロック、ジャッキー・レビンは、重度の障害を持つ子ども達との関わりが深く、シンプルテクノロジーを活かすことによって、子ども達へ学び、参加、コミュニケーションの機会を長年提供しています。翻訳は、コミュニケーション エイド スペシャリストである宮崎みわこさんにお願ひし、必要な箇所は日本文化に合うようにアレンジをして頂きました。子ども達は無限の可能性を持っています。その可能性を引き出し、多くの価値ある機会の提供のため、ぜひご一読ください。

品番：9025

編者：ベギー・ロック、ジャッキー・レビン

訳者：宮崎みわこ(コミュニケーションエイドスペシャリスト)

仕様：A4版 96ページ

定価：本体1,900円+税 2001年11月23日第一版発行